

…きろ

起きろ

…お

ふ…

やっと起きたか

あんまりにも幸せそうな顔で寝てたものでな

起こすのを躊躇ってしまったよ

だが、チェックアウトの時間が迫っているものでな

悪いが、起こさせてもらった

…ああ…いや…

別に責めてるわけじゃない

昨日は随分歩き回ったからな

宿に着いたのも遅かったし

疲れが残っていたのだろう

私は慣れているが

お前には堪えたんじゃないのか？

…ふ

その向上心は見上げたものだが

あまり焦るな

お前はまだまだ若いんだ

体力だって、これからどんどん付いていくさ

さて…

わかったら、さっさと顔を洗って着替えろ

出るぞ

お、林が見えてきたぞ

ここがコヨーテ林道で間違いなさそうだな

地図通りだと

ここを抜ければ、すぐにイヌワシ村だ

このベースなら日没までには着くな

…と、思ったが、どうにも雲行きが怪しくなってきたな

雨が降るかもしれん

少し急ぐぞ

あ、だが、足元には気を付けろよ

この林道、少々道が悪すぎる

…ん？

どうした？

何をそんなに落ち込んでいる？

…ああ、寝坊したことをまだ引きずっているのか

…ふっ

気にするな

今朝も言っただろう？

お前はまだまだまだ若いんだ

寝坊の一つや二つ、して当然だ

むしろ、お前に無理をさせ過ぎた私に責任がある

…ふ

それに、未来の大賢者様が朝寝坊…だなんて
茶目っ気があつて可愛いじゃないか

…あ…あとな…それと…

…多分、出発が遅れたのは、お前の寝坊が原因とかではなくてだな…

…その…私が豚を何頭も食べていたせいだろう…

…し、仕方なかったのだ

あの豚はオーク豚と言つてだな

この近辺にしか生息していない珍種なんだ

しかも、あの町の伝統料理、オーク豚の丸焼き

丸焼きと言つても普通の丸焼きではないぞ

あの町独自の調理法によつて

外はカリッと、中はチーズのようにトロッと蕩けていてだな

元々のオーク豚の味はかなりしつこいはずなのだが

どういう訳かあの料理は濃厚なのにしつこくなくてな

何頭でもいいけてしまうのだ

…ああ、しかし本当にあれば美味かつたな

もう一度食べてみたい

一体どのような調理をすればあのような絶品料理が生まれるのだろうか

味は覚えている事だし

今度、時間がある時にでもあの料理を再現できぬか、挑戦してみようかな

勿論、その時はお前にもたっぷり食べてもらうぞ

やはり、男子たるもの肉をたくさん食べなくてはな

……うん、いい返事だ

…あ、それとな…

一回伏せろ

…ふっ！

…魔物か…でかいな…

あの尾の黒い輪…ダークリングヒューマか

嗅覚が発達していて視力も高い

その上牙も爪も鋭く

なにより、俊敏で獰猛…

…三匹か…

…しばらく私のそばから離れるな

…さて、丁度お腹も空いてきたところだったんだ

お前らは…どんな味がするんだろうな？

…ふー

やつと落ち着いた

まさかあの後五回も襲われるとはな

結局途中から雨も降ってくるし

ははっ、お互いびしょ濡れになつてしまったな

…む？

どうした？ まだ寝坊の事を気にしているのか？

…いや、別にお前は足を引っ張つてないよ

…見ろ、この腕

あの時私が負った傷を、お前はこんなにも綺麗に治してくれたじゃないか
お前がいなければ、ここまで治るのに一月はかかっていただろうな

お前のお陰だ

…ふ

…お前は弱くない…強いよ…

いいか、お前の強さはその優しさだ

人が傷つけば自分も傷つき

その度に、強くあろうとする心

それがお前の強さだ

お前は、先の戦闘中、自分が標的になるかもしれんリスクを負ってまで

私の傷を治してくれた

命懸けで私を助けてくれたんだ

だからこそ、私もお前を全力で助ける

命懸けで守る

お前と同じようにな

…そんなお前とだからこそ、私は旅を続けているんだ

いつも私を助けてくれて

私と一緒にいてくれて

ありがとう…

…ふふっ

なんだか照れ臭い話になってしまったな

…さて

これ以上体を冷やすと風邪をひいてしまうからな

先に風呂に入っとけ

…私は荷ほどきをしてからゆっくり浸かるさ

だから遠慮しないでのんびり浸かってこい

…目元もしっかり洗っておけよ

○トラック 騎士と賢者と初めての添い寝

なかなかいい湯加減だったな
…む

なんだ、まだ起きてたのか

確かに、明日は何も無いからゆっくりしようとは言ったが

休息は大切だ

私に気遣わず、先に寝ててもよかったのだぞ？

…よっ

…ん？

どうした？

何をかしこまっているんだ？

…そうか、気のせいかな

…しかし、今日も一日色々あったな

オーク豚の丸焼きは絶品そのものだったし

デザートに食べたメロンソーダバフェも美味かった

その後散々魔物に襲われたが、二人で協力して何度も窮地を脱した

ダークリングヒューマは筋っぼくて食べれたものではなかったが

色々料理してみよう

倒した分は責任をもって食べねばな、命に失礼だ

…と、まあ、色々あって、最後には今日一日のご褒美に長風呂も出来て

…ふ

何というか…楽しいな

こんな楽しい日々が永遠に続けばいいのにな…

…私たちの使命は、人と魔物、双方の生態系のバランスを取る事にある

こちらからは積極的に魔物を襲わんが、降りかかる火の粉は払わねばならん

等しく公平に調和の取れた弱肉強食の実現

途方もない事のように感じるが…

それでも、きつと…

この日々は、いづれ終わるだろうな…

こんなに楽しい日々なのに

永遠に続く事はないのだろうか…

…なんてな

私達の使命が終わる時

それは、この世に真の平和が訪れる時だ

楽しんでばかりもいられないさ

…ふふっ

今日はなんだか変な話ばかりになってしまいうな

もう寝るか

宿は一部屋しか取れなくてな

この通り、ベッドも一つしかないんだ

私と一緒にベッドでは窮屈だと思うが

まあ、この村にいる間だけだ

我慢してくれ

…何をしている？

早くこっちへ来い

もう日付が変わってしまう

…床で寝るのか？

そんなのダメに決まっているだろう
体を痛める

…だから、私に気遣いなどいらん

…いいから早くこっちへ来い

ほら、ベッドに上がれ

ダメだ…降りるな

ほら、そこで大人しく横になつてろ

…まったく

お前は今晚、壁際で寝ろ

いつベッドから降りるかわかったもんじゃないからな

…いいか？

今までは運よく別々の部屋を取っていたがな

私達はどんだん、都から離れていつてゐるんだ

今日みたいに、部屋数の少ない宿に泊まる機会も多くなる

そんな時にまで一々気を遣っていたら、お前が休まらんだろうが

確かに一人用のベッドに二人で入れば手狭だがな

床で寝るよりはかなりマシだと思ふぞ

だから今のうちにこの狭さにも慣れておけ

…どうした？

顔が赤いぞ

…いや、流石に気のせいじゃないな

熱でもあるんじゃないのか？

…どれ

…ふむ、少し熱いな

寒い季節だしな…今日は雨にも濡れたし…

体を冷やし過ぎてしまったか

すまないな、無理をさせ過ぎてしまった

…ああ、いや、お前は何も悪くないよ

…しかし、日が昇るまでまだまだ時間がかかる

これ以上体を冷やしたら、更に体調を悪化させてしまうな

…ならば…

…んっ

…朝までくつついててやろう

これなら暖かいだろう？

…熱が無いわけではないだろう

顔は赤いし、体は熱い

これが発熱以外の何だというのだ？

それに、凄い汗の量だ

いいぞ、もつとかけ

汗をかいた分、熱が引いていくはずだ

…こら、モゾモゾするな

私に遠慮はいらんと云っているだろう

足を絡めたからもう逃げられんぞ

ほら…頭も撫でてやるから落ち着け

よしよし

よしよし

…まったく、こんな小さな体で暴れおって

…ふ、ほんと、小さい体だな

やはり、肉をもっと食べるべきだな

…まあでも、お前の体が小さいままでも、私は構わんがな

何があっても、お前の事はずっと傍で守り続けてやる

だから…一々…気にするな…

お前は…今のままで…

十分…

かわい…

す…

す…

す…

す…

○トラック3 騎士と賢者と初めての見抜き

すー…

すー…

すー…

…む

…もう朝か…

しまったな

寝すぎてしまった…

…お

お前も起きたか

どうだ？ 具合の方は？

熱は引いたか？

…いや、まだ顔が赤いな

…まったく、世話の焼ける奴だ

起きろ、医者へ行くぞ

体を洗ってこい

…この村には確か、魔法薬学師がいると言っていたな…

…ん？

何をモジモジしている

早く布団から出ろ

恥ずかしがってないで…早くしろっ

…ん？

何だこれは？

何をポケットに入れてるんだ？

…お、おい!!

急に変な声を上げてどうした!?

大丈夫か!?

…まさか、とんでもない病気にかかったんじゃ…

…ま、待てよ…

下腹部の固い膨らみ…

触ると変な声を上げて…

顔は赤いし体も熱いし…

…ま、まさか…

まさかまさか…

…お、おい…

この固いの…まさか…

その…なんだ…

お前の…

お、おちんちん…なのか？

…あ、や、やっぱりそうなのか？

…じゃ、じゃあ、熱があるから体が熱くなってるのか…

別にそういう訳じゃなかったんだな!?

…そっか…

…ふーっ

よかった…

お前が体調を崩したと思ってな…

私は本当に心配したんだぞ！

ほんと、どうしようかと思って…

…でも、お前が無事ならそれでいい

…それでいい…んだが…その…

お前の…それ…ぼ、勃起…してるんだよね？

い、いつからなんだ？

…そうか…気付いたのはさっきなんだな…

…ん？

待てよ…じゃあ、昨日顔が赤くなっていたのはなんだったのだ？

…ふむ

私と一緒に寝ると思うと顔が赤くなるのか…

…ん？

…と、いうことは…

お、お前…まさか…私に欲情しているのか!?

わ、私にくつつかれたから…その…ぼ、勃起しているんだろう!?

…あ、い、いや、別に怒ってない

引いてもいいし…

ただ、驚いただけだ

わ、悪い気はしないしな

…しかし…ふふっ

私で勃起か…ふふっ

…ふ

それにしても、まさかな…

散々人に心配をかけておいて…

蓋を開ければ私に欲情してただけだったとはな…

これは…少しばかりお仕置が必要だな？

…そこに座れ

…ああ、別に怒ってはいないさ

お前が勃起した事に関してはな

だが…私は本気で前をお前を心配してたんだ…

何故その事を早く言わなかったのか…

そこは許さん

…ん？ ふふっ

…確かに、本人に向かって「欲情します」だなんて情けない事、言えないよな

いっちょ前に羞恥心をもって…可愛い奴め

だが、だめだ

そんな可愛い顔しても許してやらん

…私に許してもらいたいのか？

…そうかそうか

…なら…

今から私の言う事に逆らうな

私の言う事をよく聞けたら、今日の事は許してやろう

わかったか？

…ふふっ、いい返事だ

…よし

じゃあまずは…下を脱げ、全部だ

…どうした？

俯いてないで早く脱げ

…私に許してほしくないのか？

…そうだよな、許して欲しいよな
ならば、私の言う事を聞かねばな

…ふふっ

ほんと可愛いな…お前…

…ふ

おいおい、何を手で隠している？

今すぐその手をどけろ

…聞こえなかったか？

私に欲情して

浅ましく勃起した

お前のちんぽを見せろと言ってるんだ

…さあ、ほら

手をどけろ

……ふふっ

…ふふふふふっ

こ、これがお前のおちんちんか

本で見たものよりちっちゃくて…可愛いな

皮を被ってる…包茎というやつだな…

ピンクの先つちよが少し覗いているな

頑張ってる剥けようとしてるんだな…いじらしい奴め

匂いは…すんすん…

想像していたほど臭くはないな…

ちゃんと洗っている証拠だな

ふふっ

…どうした？ 顔が真っ赤だぞ？

でも、熱があるという訳じゃないだろうか？

私におちんちんを見られて興奮しているんだろう？

…なんだ、違うのか？

…その割には、お前のおちんちん、ずっと勃起したままだがな

…何故目を逸らす？

こっちを見ろ

お前が性的な目で見ていた私が

お前のおちんちんを見ているんだぞ

金玉から竿から皮を被った亀頭まで

まじまじと見ているんだぞ

恥ずかしがらずにもっと喜べ

お前のおちんちんはこんなにも自己主張してるんだぞ？
ふふっ

やめてくれ

そんな可愛い目で見られたら
もつと辱めたくるではないか

ふふっ

…なあ、お前、勃起したのは初めてじゃないんだろ？

勃起が恥ずかしい事だって認識していたもんな？

今まで何度も勃起してきたんだよな？

…くっ、そうか…

なら、その時はどうしていたんだ？

まさか放置していたわけでもあるまい

…ふふっ

そうか、自分で扱いて治めていたんだな

一人の時を見計らって…くっくっ…

それは悪かったな

妙な気を遣わせてしまっ

これからは私の事は気にしないでいいぞ

勃起したら私に構わずすぐ扱け

わかったな？

…くすっ、領いたな…

よしよし、それじゃ早速

自分で扱いて治めろ

…どうした？

さっき言っただろ？

私に構わず勃起したらすぐ扱けと

今、お前のおちんちんは勃起しているじゃないか

だったらほら、今すぐ扱いて治めねばな

…おい、どこへ行くつもりだ？

こそこそ隠れて扱くつもりか？

私に構うな、と言ったばかりなんだが？

…ふふっ、そうだ

今すぐこの場でオナニーしろ

…ふふっ、はははっ

してしまっ

私の前でオナニーしてしまっ

…ふうん

お前はいつも、そんな風にオナニーしているんだな

人差し指と中指で輪っかを作っ

皮を剥いたり戻したり

亀頭にゴシゴシ擦りつけて

ははっ

皮オナニーというやつだな

皮を上下に擦って気持ちよくなる方法だと聞いたが

…本当にやるんだな

くすっ

どうした？

気持ちよさそうな声が漏れてるぞ？

亀頭からもぬるぬるした透明な液体が漏れてきたな

我慢汁というやつか？

男は気持ちよくなるとおちんちんから汁が出るらしいからな
ははっ

漏らした我慢汁を塗ったくって

滑りがよくなっっていくな

ふふっ

なあ、気持ちいいか？

私に見られながらの皮オナニー

そんなに一生懸命扱いて…可愛いな

ふふっ

…なあ、お前は普段オナニーしてる時、オカズはどうしてるんだ？

男はオナニーをするのにえつちな物を見たり、考えたりするんだろう？

お前は どうしてるんだ？

…どうした、答える

今更恥ずかしい事なんてないだろう？

お前は既に、私に欲情していることもバレているし

皮オナニーだって見られているんだ

だったらオカズくらい、今すぐ答える

…わ、私…？

…そ、そっか…私か…

私でオナニーしているのか…

いつも、そうやって…

…い、いや、だから別に引いてなどいない
む、むしろ…

い、いや…なんでもない…

いいからお前は手を動かせ

…ま、まあ、お前は私で勃起しているんだし

当然と言えば当然だよな…

…それで、その…私をオカズに、っていうのは…どういう風なんだ？

…む、胸？

私の胸の事を考えながらオナニーしているのか？

…ふふっ、そうか…

私の胸で…

ふふっ、いいぞ

ならばたくさん見ろ

お前が今まで散々オカズにしてきた私の胸だ

こうやって揉めば…ほら、柔らかい

指が飲み込まれていくんだ

…くくっ…あはははっ

手の動きが速くなったな

そうかそうか、私の胸はそんなに魅力的か

でかいし重いし足元は見えないし

今までは邪魔にしか感じてこなかったがな

お前のオナニーに貢献できていたのであれば、嬉しいよ

あははっ

…ふふっ

嬉しいから

くつついてやろう

ふふっ

どうだ？

私がくつついてやったぞ？

お前の大好きな私の胸が

お前の体で潰れているぞ

むっちらもにゅもにゅ

ふふっ

ずっしりとした柔らかさを感じるだろ？

私の

おっぱい

…あははっ

可愛い声漏らして…

本当にどうしようもないな…お前は…

ふふっ

体が震えてきたぞ

そろそろ射精しそうなのか？

いいぞ

頭を撫でてやるから

好きな時に果てろ

なでなで

なでなで

ふふっ

もう限界か？

くすっ

なら…私の目を見ろ

私の目を見ながら

私に頭を撫でられて

私のおっぱいを感じながら

皮オナニーでイけ

…くくっ、あはははっ

…あーあ

イってしまつたな

私の前で

皮オナニーで

射精してしまつたな

あはははっ

…見ろ、見事に私の服にかかっているぞ

お前が漏らした精液が

ふふっ

どれ…

熱いな

それにぬるぬるしてる…

見ろ、糸引いたぞ

あははっ

しかし酷い臭いだ

こんな臭くて熱くてぬるついたものがお前の中から出てきたのか

…くっく…生命の神秘だな

…しかし、お前はもっと純粹な奴だと思っていたのだがな…

実態は旅の仲間で皮オナニーする変態賢者見習いだっただか

私と旅をしているのも

まさか私でオナニーし続けるためとかじゃないよな…って、あ…

…待て！

どこへ行く!?

○トラック4 騎士と賢者と初めての手コキ

…お、戻ってきたか？
…怪我はしてないか？
…そうか、よかった？
…その…なんだ？
…さっきはすまなかった
お前があまりにも可愛いものでな
つい…いじわるしてしまったんだ
傷ついたよな…
すまなかった…
…怒って…ないのか…？
私の事…嫌いになつてないのか…？
…いや、私は別に、お前の事を嫌ったりしてないが…
…そっか
…ふふっ
よかった
…お前に嫌われてしまったら、どうしようかと思っていたんだ
…ふふふっ
ほんとによかった…
あははっ…ん？
…なあ
さっきの今で聞きにくいんだが…
その…お前…また勃起してないか？
…そうか…
と、とりあえず、ベッドに座ろう
…その…なんだ？
わ、私のせい…なんだよな？
私がお前を抱きしめて
お前の顔が私の胸の中に…その…
だ、だから…お前はまた勃起しちゃったんだよな？
…いや、だから引いても怒ってもいいと言ってるだろう？
お前はまだまだ若いんだ
そ、そのくらい元気があって当然だ
…ただ、その…
また…治めないといけないだろ？
…自分で…扱いて…
…い、いや、また私の前とかではなくてだな…
…その…私に
…さ、触って欲しいか…？
…ふふっ
その目は、怯えと期待、か？
…いやなに、さっきはお前を虐めてしまったからな
そのお詫びに…お前のおちんちんを
さ、触ってあげようと言ってるんだ
どうだ？

嬉しいだろう？

射精したばかりなのに

ちよつと抱き着かれただけでまた勃起するくらいなんだ

私に生でおちんちん触られたりしたらどうなるんだろうな？

なあ…どうする？

おちんちん、触ってあげようか？

…くすっ

…そうか

私におちんちん、触ってもらいたいんだな

いいぞ

ならばまた、下を脱げ

…ふふっ

また見事なまでにガチガチになっているな

…いや、さっきよりも大きくなっていないか？

くすっ

そんなに私におちんちん触ってもらうのが楽しみなのか？

…ふふっ

なら…よく見ている

私の手が…お前のおちんちんに触れるぞ…

…ふふふっ

触ってしまった…

ははっ、熱いな…

固いのにブニブニしてて、変な感触だ…

これがお前のおちんちんか…

ふふっ、なんだか愛おしいな…

…ははっ

どうした？

まだ軽く握っただけだぞ？

そんな甘い声を出して…愛い奴め…

可愛い口から可愛い声を出して…

お前はどこまでも可愛い奴だな

…ははっ

すまないすまない

あまりにも可愛い耳をしていたのでな

つい息を吹きかけてしまった

…が、随分よかったようだな

見ろ

お前のおちんちんから溢れた我慢汁が

私の手をびしょびしょに濡らしているぞ

私は未だ軽く握ってるだけだというのにな

くくっ

そんなに喜んでくれると、私も気分がいいよ

どれ、サービスだ…次は耳を舐め回してやろう

あーむっ、ちゅるっ、れろれろれろっ、れろろお、ちゅっ、れろれろお

どうだ？

れろれろろお

私の耳舐めは

れろれろっ、ちゅるっ

気持ちいいか？

れろれろれろれろっ

ふっ

ちゅっ

とてもよさそうだな

れろれろお

お前のおちんちん

れろっ、ちゅるっ

ビクンビクン動いているぞ

れろろおっ、れろれろろお

振動が

れろっ

私の手にまで伝わってくるよ

れろれろれろお

お前は本当に耳が弱いんだな

れろれろっ、れろれろろお

くすっ

ちゅるっ

可愛さの塊みたいな奴め

れろれろれろれろれろお

ふっ、私にもっと可愛いところを見せてくれ

れろろお、れろっ、れろれろれろっ、れろお、れろれろろお

ははっ

れろれろれろっ

凄い声が出たな

れろろお、れろっ、れろれろれろれろっ

おちんちんも

れろれろろろお

私の手の中で跳ねてるいるぞ

れろろお、れろれろっ、れろれろれろお

ふふっ、見ろ

れろれろっ、れろろお

我慢汁がベッドに垂れてきたぞ

れろお、れろれろれろお

まるでお漏らししたみたいだな

れろお、れろっ

変態賢者様のお漏らし我慢汁

れろれろれろれろれろお

ふふっ

れろろお

女の子みたいな声を上げて
れろっ、れろれろれろっ

なあ

れろっ

手、動かして欲しいか？

れろれろお

お前のオナニーみたいに

れろろっ

私の手でシコシコ

れろれろろお

して欲しいか？

れろれろっ

くすっ、もしして欲しかったら

れろれろれろれろっ

懇願してみろ

れろろお、れろれろれろっ

私に

れろれろお

「僕のおちんちんシコシコしてください」と

れろれろっ

可愛く

れろろお

隣の部屋に聞こえるくらい大声で

れろれろれろお

言え

れろれろれろれろれろろお、れろろお、れろっ、れろれろれろろお

…ふふっ、あはははっ

あーあ、言ってしまったな

随分な声量で、おねだりしてしまったな

くすっ

本当に隣に聞こえたかもしれないぞ？

ははっ

しかし、もっと躊躇うかと思ったが

随分あっさり言ってしまったな

そんなに私に扱いて欲しかったのか？

…ふふっ、可愛いな

ほんと可愛い変態賢者だよ

…いいだろう

お前の勃起おちんちん、私の手で扱いてやろう

ほら…こっちを向け

んーちゅっ、ちゅっちゅっちゅっ、ちゅっ

…くすっ、ファーストキス、貰ったぞ

あははっ

ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ

驚きのあまり声も出ないか
ちゅっちゅっちゅっ

どうだ？

ちゅっ

初めてのキスをしながら

ちゅっ

初めての手コキをされる感想は？

ちゅっちゅっ

そうか、そんなにいいか

ちゅっ

だが、まだだ

ちゅっちゅっちゅっちゅっ

もっと良い事をしてやろう

ちゅっ、れろろろお、れろれろろお、れろれろろお、ちゅるっ、れろれろれろれろっ

ふふっ、どうだ？

れろれろろお、れろっ、れろれろれろれろっ

所謂大人のキスというやつだ

れろちゅっ、れろれろれろっ、ちゅるるっ

気持ちいいだろう？

れろれろれろお、れろろお、れろれろれろろお

くすっ

れろっ

目が蕩けてるぞ

ちゅるちゅるちゅるっ、れろろお

変態賢者様には天国の味か

れろれろれろれろろっ、ちゅるっ、れろれろれろろお

ふっ

れろれろっ

私が意地悪しても

れろれろれろお

いつの間にやら抵抗もなくなって

れろろろお、れろれろろお

私におちんちん扱かれるのが

れろれろれろっ

そんなに幸せか

れろろお、れろちゅるっ、ちゅっ、れろお

ふふっ、どこまでいっても可愛い奴め

れろれろれろれろろお

ほら

れろお

もっと舌を絡めろ

ちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるっ

ははっ

れろっ

お前のおちんちん
れろれろっ

脈打ちが激しくなってきたぞ
れろれろお

もう出そうなのか？

れろろお

いいぞ

れろお

我慢するな

れろれろろお

何があっても私が傍にいてやる
れろれろれろお

だから

れろっ

私のキス手コキで

ちゅるっ

盛大に果てろ

れろれろれろれろろお、れろれろお、れろれろれろれろろろお、れろっ、ちゅるっ、れろれろれろお

…ははっ

熱いのいっぱい出たな

見ろ

私の手が真っ白だ

くすっ

何だかさつきよりも出てる気がするな？

気のせいではないよな？

ははっ

そんなに私のキス手コキがよかったか

可愛いな

ちゅっ

…ふふっ

ぐったりしてるな

疲れただろう？

お前はそこで寝ていろ

少し休んだら

昼飯を探しに出るぞ

○トラック5 騎士と賢者と初めてのパイズリ

いやー、しかし絶品だったな
グラナータ・クレミージュと言ったか？

サンライズトマトがこれでもかと使われていて
程よい酸味と甘みがこの村伝統のロースケンタウロスの肉料理と見事にマッチしていてな
頬が落ちるかと思ったぞ

やはり、立ち寄った村の郷土料理は堪能せねば、失礼というものだな
…どうした？

随分大人しいじゃないか

ふふっ、さてはお前も、この村の絶品料理に圧倒されているな？

…ん？ あ、ああ…今朝の事か

ふふっ、あれは最早日常として受け入れた
騎士たる者、切り替えが大事だからな

お前は私に性的劣情を抱いていた

しかし、それは年頃の男子として当然のこと

お前の人間性を貶めるものでもないし

私達の関係性が変わることもない

…さ、さっさと宿に戻るぞ

今日は料理以外にも収穫があった

明日は忙しくなりそうだからな

…ふー

今日は楽しかったな

だが、さっきも言ったように切り替えは大切だ

明日やる事を整理するぞ

とは言え、別に普段とやる事は変わらない

魔物の撃退だ

なんでも、数週間前から、なぜかイツカクイノシシが頻繁に現れ、畑を荒らしているらしい

この村の食糧自給率の低下は致命的で、壊滅的被害を被っているそうだ

…そんな状況下の中、この村の人たちは旅人である私達をもてなしてくれた

少ない食料で切り盛りしているのに…だ

…時期と場所が気にならないでもないが…とにかく

この恩は、必ず返さねばならん

魔物を一刻も早く、追い払うぞ

…と、いう訳で明日は早く出る事になる

今日はもう寝るぞ

…ん？

…おいおい、なんだこれは

…なに嬌声を上げている

お前、話を聞いていたのか？

明日は忙しくなるんだ

早く休まねばならん

なのに、なぜお前はまた勃起しているのだ？
なあ、なぜなんだ？

どうした？

早く答えろ

…まさかお前

私が隣にいてだけで勃起するようになってしまったのか？

…ふっ

見ろ、お前の股間

我慢汁で染みができてるぞ

とんだ変態になってしまったものだな

…まったく、しょうがない

おい、下を脱げ

…ん？

そうだ、私が射精させてやる

何度も言うが明日は早いんだ

お前が一人で処理をして、時間をかけられても困るからな
だから今回は、お前の大好きな

私の胸で射精させてやろう

くすっ

息の荒さが増したな

…ふっ

どうだ？

見てみたいか？

お前が散々オカズにしてきた

私の胸

妄想ではなく

実際に見てみたことはないか？

…くすっ

いいぞ

ただし、今朝のように

私に可愛くおねだりできたらな

「僕が皮オナニーする時、いつもオカズにしていた
ヴェル様のおっぱいを見せてください」と

大きな声で懇願してみろ

さあ…言え

…くすっ、はははっ

偉いぞ

よく言えたな

よしよし

ふふっ

じゃあ、褒美だ

よく見ておけよ

お前の大好きな

私の胸が

露わになる瞬間を

…ど、どうだ…？

わ、私の胸…

…大きさには自信があるんだが…その、形とか…変じゃないか？

ち、乳首の色とか…乳輪の大きさとか…好みがあるのだろう？

私の胸は…お前の好みか…？

ちゃ、ちゃんとえつちな胸になってるか…？

……そうか

そうか…ふふっ

私の胸はお前の好みか…ははっ

…ふふっ、いいぞ

触ってみろ

お前が触りたくてどうしようもなかった私の胸だ

好きなようにしてみろ

…んっ

ふふっ

随分遠慮気味に触るんだな

もっと強く揉んでもいいんだぞ？

くすっ

どうだ？

夢にまで見た私の胸は

重くて、柔らかくて、弾力があつて

膚になってしまふだろう？

…ははっ

お前のズボン、びしょびしょじゃないか

どれ、私が脱がしてやろう

ほら…腰を上げろ

ふふっ

いう事聞けて偉いな

…くすっ

ガチガチに勃起している…

固くて熱いな

…私の胸で、こうなったのか…

…本当に、どうしようもない奴だ

…んっ

…ふふっ、乳首が気になるか？

いいぞ

たくさん触れ

んっ

私もお前のおちんちん

いっぱい抜いてやるからな

あははっ

凄い声だな

絶対に隣に聞こえているぞ

んっ

私達、毎夜毎夜激しい二人だと思われてるな
くすっ

んっ

今朝二回も出したというのに

こんなに固くさせて

んっ

どうしようもない変態だよ

お前は

ふふっ

んっ

胸を揉みながらおちんちんしこしこされるの
気持ちいいか？

んっ

もうイきそうか？

私の手コキで果てそうか？

…くすっ

まだダメだ

くすっ、くっくっく

おあずけを食らった犬のような顔をして…

おちんちん、まだ触ってて欲しかったか？

手で触るのはもうお終いだ

…そんな悲しい目で見んな

手で、と言っただろう？

次は…お前の大好きな胸で、おちんちんを抜いてやろう

…ふふっ

可愛い顔で鳴きおって

まだ包んだだけだぞ？

くすっ

どうだ？

私のおっぱいでおちんちんを包まれた気分は
柔らかいのに圧迫感があって、最高だろう？

ははっ

辛抱たまらんか

じゃあ、胸を動かしてやるからな

私の胸で、おちんちんをズリズリしてやる

…ふふっ、あはははっ

最早声を抑える気もないな

そんなに気持ちいいんだな

私のおっぱい

くすっ

おっぱいでおちんちん、上下にゴシゴシ

たまらないな？

ははっ

我慢汁、凄い量だぞ？

私のおっぱい、そんなに興奮するのか？

それとも、私がおっぱいって言うのに興奮しているのか？

ふふっ

どっちもか

ははっ

どうした？

もう果てそうか？

ダメだ

まだ我慢しろ

…くすっ

私が許可を出さねば我慢するか

いじらしいな

ふっ

お前は時を選ばず私に欲情するような変態だからな

ここで満足させておかんと、寝込みを襲われかねん

だから…今宵はたっぷり、私のおっぱいを味わえ

くすっ

本で読んだ事があるのだが、このパイズリというやつ

こうやって上下に擦る以外にもやり方があるそうなんだが

果たして気持ちよくできるのか、疑問が残るな

一つ一つ、試してみようか

…変態賢者様はちゃんと耐えられるのかな？

ははっ

では、いくぞ

まずはおっぱいを、互い違いにこね回したり

ははっ

ちゃんと気持ちよさそうだな

さっきのやり方とどちらが気持ちいい？

…くすっ

そうか、選べぬか

ふふっ

ならば、次のやり方も試してやろう

片方のおっぱいでおちんちんを支えて

もう片方の乳首で、亀頭を虐める…んっ

なるほど…んっ、これはなかなか…

んっ

ふふっ

お前も気持ちよさそうだな

んっ、んっ

しかし、思いの外、よく耐えられてるな

んっ

偉いぞ

んっ

ふふっ

ならば最後だ

おちんちんをおっぱいで挟み潰して：

力任せに上下に擦る

あはははははっ

どうだ？

先のバイズリとは比べ物にならん気持ちよさだろう？

くすっ

なんだその甘い声は？

どこからそんな声を出しているんだ？

ふふっ

私の声が届いてないと見えるな

そんな耳はこうだ

あーむっ、れろろお、ちゆるっ、れろれろれろっ、ちゅっ、れろれろろお

くすっ

れろれろれろっ

気持ちいいな？

れろれろお

天国だな？

れろろお、れろっ

大好きな私の大好きなおっぱいで

れろっ、れろれろれろっ

おちんちん扱かれて

れろろお、れろれろろお

耳も舐め回してもらって

れろお、れろれろれろっ、れろお

幸せだな？

れろれろれろれろれろお、れろれろお、れろれろろお

くすっ

れろれろっ

どうした？

れろお

頭にしがみついてきて

れろれろお

くすっ、わかるぞ

れろれろれろっ

おちんちん、おっぱいの中でのたうち回ってるんだ

れろろお、れろれろれろっ

もう、限界なんだろう？

ちゆるちゆるちゆるっ

果てそうなんだろう？

れろろろお

いいぞ

れろっ

許可してやる

れろれろれろっ、ちゅるっ

幸せに包まれながら

れろろろっ、ちゅるれろっ

私のおっぱいの中で

れろお、れろれろれろろお

射精しろ

れろれろれろれろろっ、ちゅるっ、れろれろお、れろれろろお、れろれろれろれろれろろろお

…ふっ、はははっ

射精したな

…くすくす

随分出したものだな

見ろ、私の胸

谷間にお前の精液で池ができているぞ

そうかそうか

私の胸はそんなに気持ちよかったか

あははっ

…は、は？

な、何を言っている

そんな訳ないだろう？

私だって、胸で男をイかせた事くらいあるわ

まったく…何を勘違いしているのか…

…む？

どうしたのだ？

…くすっ

なんだ、いっちょ前に嫉妬しているのか？

ふふっ

可愛い奴だ

○トラック6 騎士と賢者と初めてのフェラチオ

じゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっ

じゅるる…む、起きたか

じゅるじゅる…今日はちゃんと、じゅるっ、早く起きたな

じゅるれろお、れろれろっ、偉いぞ

れろお、れろれろれろっ

む、これか？

れろれろれろれろっ

フェラチオというやつだ

れろれろっ

お前のここが、れろお、朝から立派になっていたものでな

れろれろれろれろっ

戦闘中に集中力を欠かれても困るし

れろれろれろお

今のうちに鎮めてしまうと思ったんだ

じゅるじゅるじゅるじゅるじゅるじゅるじゅるじゅるっ

ふっ

れろお

朝っぱらから元気な声が出るな

れろれろれろっ

だが、時間もあまり無いのでな

れろろお、れろれろお

悪いが、すぐに終わらせるぞ

じゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっ

ふっ、愛い声だ

じゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっ

どうした？

れろれろれろお、手を伸ばしてきて

ふっ、れろお、わかったぞ

手を繋ぎたいのだな

いいぞ、握ってやる

恋人みたいに指を絡めて、な

くすっ

では、このまま一気にしゃぶってやるから

私と手を繋いだまま気持ちよくなってしまうえ

ちゅるるっ、じゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっじゅぽっ

んっ、んんう…

…ごくんっ

…ふう…

ふふっ

たくさん出したな

喉に絡みついてなかなか飲み込めなかったよ

昨日あれだけ出したというのに…元気な事だ

…む？

ああ、確かに臭いし苦いし最悪な味だったよ

だが、不思議と嫌ではない
もしかしたら、お前の精液だからかもしれんな
…い、いや…何でもない
それよりも、いつまでも呆けてないで起き上がれ
口直しに朝食を摂ってから、畑を見に行くぞ

○トラック7 騎士と賢者と初めての匂い

…ふう

やつと戻ってこれたな

よっ…と

まだ三日目だというのに、この部屋が我が家のように愛しくなっちゃったよ
ふふっ

しかしやはり…長い一日となったな

おかしいと思っていたのだ

…この村を訪れた日の事を覚えているか？

今は十一月初旬

例年通りならば冬入りはまだ先だというのに

あの時降っていた雨は、少しパサついているように感じた

いつもよりも寒く感じたし、だからこそ、私はお前の風邪を疑ったのだが…まあいい

…つまり、今年は例年よりも早く冬が訪れる兆候がある

しかし、イツカクイノシシ

奴らはそれら気候の変化を敏感に感じ取る習性がある

冬眠の準備を進める為だ

そうして厳しい冬を越し、何世代にも渡って種を守り続けていたのだ

この気候ならば、とうに冬眠を始めていてもおかしくはないのだが…

何故か冬入り目前となった今でも、奴らは冬眠の準備を進めている

更に言えば、この辺りはイツカクイノシシの生息地域ではない

本来ならば、奴らはもっと北の方、サビーダ山脈を生息地としているはずだ

違和感を覚えた私は、まず最初に彼らの畑を見に行った

正直、狂言を疑ってしまったんだ

だが、彼らの畑はしっかり襲われていた

イツカクイノシシによって

生息地域、活動時期から外れた魔物が畑を荒らしている…

何かがおかしかった…

だから私は、まずそのおかしい出来事の原因を突き止めるべく動いた

…そこで、お前の大手柄というわけだ

お前が見つけた痕跡

あれこそ、ムーンライトヒグマの足跡だったのだよ

大きさから推測して、あれは生後数か月の子どもの足跡だった

そして、ムーンライトヒグマもイツカクイノシシ同様、ここが生息域ではない

イツカクイノシシよりも更に北を住処としているはずだ

案の定、子グマはいた

そして、子グマを探す親がイツカクイノシシの住処を荒らしていたという訳だ

イツカクイノシシは追いやられていたのだな

冬ごもりの準備が終わった本来の住処から、この村まで

だからこそ、彼らは仕方なくこの村を荒らしていたのだ

自分たちが生きて冬を越す為に

ふっ

そうと決まれば話は早かった

私はあえて子グマを追ひ回し、親元まで引き合わせた

戦闘も覚悟していたが、運よく親グマは子グマを引き連れ、自分たちの生息域へと戻っていった

私は…無益な殺生をせずに済んだという訳だ
住処を追われた魔物も

子と離れた魔物も

私達をもてなしてくれた村人たちも

皆、無事生きている

これは全部お前の手柄だ

…ありがとう

…ふふっ、何を謙遜している

お前があの時足跡を見つけてなければ

私はイノシシを手にかけていたかもしれない

親グマが、この村を襲っていたかもしれない

お前はそれら全てを平穩に解決したのだ

私はそれを…誇りに思うぞ

ふふっ

さて…こちらを向け

お前は今日、本当によく頑張った

偉かったぞ

だから、お前に褒美をやろう

抱き締めてやる

ふふっ、どうした？

私からのハグはお前の大好物だよな？

遠慮はいらんぞ？

存分に私に抱かれろ

…む？

た…確かに今日は激しく動いたが…

し、しかしそんなに臭うかな…

すんすん…

う…た、確かに汗臭いな…

ふむ…これでは抱きしめても褒美にはならんな

先に体を流してくるか…

…いや…待てよ…

私は今朝、お前の精液を口で受け止めた

お前の精液は随分きつい臭いだったが…私は嫌ではなかったな

…と、いう事は…ふふっ

…気が変わった

やはり先にお前を抱きしめてやろう

もしかしたらお前も、私の汗臭さを気に入るかもしれないな

ふふっ

逃がさないぞ

なに、ちょっと試すだけだ

女の子に向かって臭うなどと抜かした罰も込めてな

んー

…ふふっ

どうだ？

私の胸の匂いは
やはり汗臭いか？

ふふっ

そうだろうな

今日一日、鎧の下でずっと汗をかいていたんだ

胸にも服にも、臭いは染み付いてるだろうな

…そんなに顔をしかめて

やはり私の汗の臭いは嫌なのか…？

…くすっ

いや、違うな

お前の股間は立派に盛り上がってるぞ

…胸に包まれたから反応してるだけ…か？

ふっ

それはもつと違うな

普通ならば嫌な臭いを嗅がされた時点で性欲など失せるはずだ

そもそもこんなに股間を濡らす事もない

つまりお前は

嫌がってる振りをしながらも

その実、私の汗の臭いに発情している変態賢者だって事だ

はははっ

汗の臭いを嗅いで我慢汁びしょびしょ垂れ流して

とんだ変態になったもんだよ、お前は

くすっ

だが、安心しろ

今夜は褒美だ

変態のお前が満足するまで、私の臭いを嗅がせてやろう

…そらっ

ふふっ

私の服の中に閉じ込められてしまったな

どうだ？

周りの空気は全部私の臭気だぞ？

どこを向いても私の汗がお前を包み込んでいるんだ

大好きな私の生おっぱいを眼前に、大好きな私の汗の臭いを嗅げるんだぞ？

お前にとっては楽園だろう

くすっ

咳こんだ振りをしても無駄だぞ

だが…まあ、汗の臭いで興奮している、だなんて男のプライドが許さんか…

お前にもプライドはあるだろうからな

ふっ

ならばいいぞ

私も付き合ってやろう

ほら、私はお前を絶対に離さん

服からも出してやらん

ははっ

よかったな

これでお前は言い訳の心配もせずに
私の臭いを堪能できるぞ

くすくす

では私は

お前の股間を拝ませてもらうとしようか

ほら、腰を上げろ

ふふっ

素直に腰を浮かすんだな

…しかし…くくっ

お前のおちんちん、凄い事になってるぞ

少し触れただけでも果てそうな程にビンビンじゃないか

くすっ

知っているぞ

お前みたいな奴の事を、匂いフェチと言うんだよな？

臭い臭いに興奮する変態だ

…ふふっ、違うのか？

随分説得力のないおちんちんだが

では、この状態で何をされても射精はしないのだな？

ふふっ、どれ、試してみるか…

はははっ

おちんちん、ビクビクいつてるじゃないか

お前、やはり私の臭いで興奮しているんじゃないのか？

くすくす

なあ、私のおっぱい、どんな匂いがするんだ？

しつかり嗅いで感想を聞かせてくれよ

くすっ

本当に嗅ぐんだな

…それで、どうだ？

私のおっぱいの臭いは

…くすっ

そうか、甘い匂いと刺激臭が混ざったような臭いか

くっく…

それは確かに凄い臭いだ

だが、存分に嗅げ

お前はこの匂いが大好きなんだもんな

ははっ

しかしよく耐えるな

おちんちん、すぐにでも果ててしまいそうな程震えているが

見上げた根性だ

ふふっ

なら、特別にもっと凄い臭いを嗅がせてやろう

…ほら、少し外の空気を吸え

くすっ

どうしたのだ？

何かがっかりしてないか？

…そうか、気のせいかなふふっ

ならば、少し上を向け

…今度はお前に私の腋の臭いを嗅がせてやろう
見ろ

未だ汗でぬめっているだろう

私は腋汗が酷くてな

鎧の通気性は悪いし

いつも激しく動いた後は、こうなってしまうのだよ

…ふふっ

それを今からお前に嗅がせてやろう

嬉しいだろう？

くすっ

ほら、いくぞ

ぬるぬるの汗が糸引く腋が

お前の顔に近付いてるぞ

ほら、ぱっくん

…ふふっ、はははっ

よかったな

お前の鼻、私の腋に食べられてしまったぞ

ははっ

どうした？

そんなに声を荒げて

嬉しくてたまらないのか？

少なくとも、お前のおちんちんはそう思ってるようだぞ

さつきよりも強烈な臭いを嗅がされて

更に固さを増した

くくっ

おいおい、暴れるなよ

…そら、足を絡めたぞ

これでもう動けまい

ふっ

ついでに手も握ってやろう

ははっ

これでもう、お前は腋の臭いを嗅ぎながら手コキされるしかないな

ふふっ

ところでどうだ？

私の腋の臭いは

どんな臭いなんだ？

…くすっ

素直に答えるんだな

しかし…酸っぱすぎて気が狂いそう…か

ふふっ、あははっ
そうか

私の腋はそんなとんでもない臭いだったんだな
くすっ

そして、そんな臭いに興奮しているお前：

どちらもとんでもないな

ははっ

…実はな

今まで私は、自分の腋汗がコンプレックスだったのだよ
ちよっとした事ですぐ腋が濡れて臭くなっ：

だが、お前はそんな私の臭いに興奮してくれてるんだよな
…嬉しいぞ

くすっ

嬉しいから、私の体で一番臭いところを嗅がせてやろう
…そこに寝転がれ

…そうだ、仰向けになっ：

…ふふっ

今から一番、臭う部分をお前の鼻に押し付けてやる
くすっ

おちんちん、動いたぞ

期待してくれてるんだな、嬉しいよ

ふっ

私の体で一番臭う部分…それはな：

足だ

…くすっ、あはははっ

お前のおちんちん

顔に足に乗っけられただけで我慢汁を飛ばしたぞ

期待に応えられたようで嬉しいよ

なあ、実際臭いだろう？

私も知っているんだ

私の足は腋の次に汗をかくところだな

しかも、四六時中靴の中で蒸れている

靴の中敷きなんて、存分に汗を吸うし

地を蹴る度に、中敷きから染み出した汗が足に絡まるんだ

それを一日、何千回、何万回

逃げ場のない籠った臭気と容赦なく纏わりつく足汗：

それらが私の足を熟成させ、ここまでの臭気に昇華するんだ

ははっ

どうだ？

幸せだろう？

お前は今、こんなにも臭い私の臭いを嗅げているんだ

この上ない幸福だろう？

くすっ

どれ…それではまた、おちんちんを弄ってやるとするか

今度は手ではなく、足でな：

…ふっ、ははっ

足の裏でおちんちんがビクついているぞ

何とも言えない感触だ

はははっ

これは足コキというやつだ

足でおちんちんを踏まれて喜ぶ

変態御用達の技だな

くすっ

我慢汁が滑っておちんちんを弄りにくいが

お前はそれでも気持ちよさそうだな

ははっ

私の足裏が竿を撫でる度

亀頭から我慢汁がどんどん供給されるぞ

その度滑りがよくなって

おちんちんの気持ちよさが増していつて：

くすっ

自分から負けにいくとは、背水の陣というやつだな

ははっ

手コキの時は耐えていたが

足コキの時はどうか？

いつもと違う、新たな刺激を受けて

私の足裏の臭いも嗅がされて

もう限界を超えてるんじゃないのか？

くくっ

ところで、私のおっぱいは甘い匂いと刺激臭で

腋の臭いは気が狂いそうな程の酸っぱさだったよな？

では、私の足裏の臭いはどんな臭いなんだ？

先の二つよりも臭いのは確実だろうが：

…くっくっく

はっはっはっは

そうか

干し草と納豆の臭いか

それは本当に最悪だな

くっくっく

そんな最悪な臭いを嗅がされて

おちんちんを足蹴にされて

それでお前は気持ちよくなっているのだな

最早言い逃れもできぬな

お前は変態だ

…くすっ、あははっ

おいおい、変態と罵られて

お前のおちんちんは反応したぞ

なんだ、ちゃんと自覚があるじゃないか

…くすっ

どうした？

もう否定はしないのか？

…くっくっく

そうか、ついに認めたか

自分が変態であると

くすくす

いやいや、お前はよく頑張ったよ

その根性に敬意を表し

私の足で思いっきりイかせてやる

ほらほら

親指と人差し指でおちんちんを挟んでやったぞ

これで裏筋とやらとカリ首とやらが同時に刺激されるな

気持ちいいか？

ははっ

ほら、足裏の臭いももっと嗅げ

くすっ、ついに自分から嗅いでしまったな

そうだ

私の足裏の臭いを

干し草と納豆の臭いを存分に肺に送り込め

自分は私の足に負けてしまったのだと

脳髓に刻みつけろ

ふっ

もう果てそうだな

いいぞ

このまま足裏の臭いを嗅ぎながら

おちんちんを足コキされて

足に負けながら射精しろ

受け取れ

これが私からの褒美だ

…くっ、あはははははっ

我慢してた分大量に射精したな

気持ちよかったか？

…そうか

ふふっ

…しかし、私の足が真っ白になってしまった

これでは、私の足汗の臭いとお前の精液の臭いでとんでもない事になってしまっ
…よし

なあ、お互い、汗でびっちょりになってしまった事だし

このまま一緒にお風呂に入ってしまったおうか

○トラック 8 騎士と賢者と初めての混浴

おいおい、何を恥ずかしがっている？

今更裸が何だというのだ？

ほら、服を脱ぐぞ

早くしないと臭いが取れなくなってしまうだろう？

…くすっ

気になるか？

私のおまんこ

毛が生えてて、女のおまんこって感じだろう？

それとも…お前はつるつるの方が好きなのか？

…ふふっ、そうか

ならもつと近くで見ていいのだぞ？

ほら見ろ、中はこんな感じになっててだな

…くすっ

何を恥ずかしがっておるのだ

可愛い奴め

…さ、体が冷えてしまうといけないからな

早く体を流して湯船に浸かるぞ

…ふむ、今宵も湯加減は絶妙だな

少ない従業員なのに、毎日湯船を掃除して、お湯まで沸かしてくれているのだ

感謝せねばなるまいな

さて、早速体を洗うとしようか

…くすっ

どうした？

何故前を隠している？

私はお前のおちんちんを散々見てきたのだぞ

今更恥ずかしがる事もあるまい

そら、手をどけろ

…くっくっく

やはりと言うか…お前、また勃起していたのだな

さっきあんなに出したというのに

くすくす

私の裸に劣情を催したか？

可愛い奴め

ふふっ

そうだ

ならばお互いの体を洗いあおうではないか

よかったな

私の体をいっぱい触れるぞ

ほら、手を出せ

…よく泡立てろよ？

ふふっ

私もお前の体を泡まみれにしてやる

…さあ、洗いあおう

…何を遠慮している

ほら、私の体を洗ってくれ

臭くてたまらんのだ

…くすっ

やはりおっぱいから洗うか

わかりやすい奴だ

では私も、お前の胸から洗うとしよう

ふふっ

ピンクの可愛い乳首だな

ははっ

女の子みたいな声が反響したぞ

男の癖に乳首が気持ちいいのか？

よし、もっと洗ってやる

ふふっ、はははっ

乳首が勃ってきたぞ

乳首でも感じるとは、益々変態になってきたな

…んっ

ふふっ

お前も乳首を触ってきたか

お陰で私の声も反響してしまったな

なるほど、これはなかなか恥ずかしい

だが、私も負けんぞ

んっ

んっんっ

んんう

…ふふっ

体が熱くなってきたな

どれ、次は手を洗いあおう

ほら、手を出せ

お前の手を包み込んでやる

ふふっ

ちっちゃくて可愛い手だ

こんな手で毎日頑張っているんだからな

大したものだ

…よし、次は私の手を洗ってくれ

…どうだ？

お前の手よりも大きいだろう？

この手で、お前のおちんちんを扱いていたんだぞ

…くすっ

おいおい、おちんちんが我慢汁で汚れたぞ

これから洗おうって時に

…まったく、仕方がない奴だ

ふふっ

なあ、もういっその事、全部洗ってしまおうか

ほら、お互い抱き合って、全身を洗いあおう
んーっ

…ふふっ

ぴったりにくっついてしまったな

…どうだ？

感じるか？

私のおっぱいとお腹が、お前に吸い付いているぞ

それに…おちんちん

お前のおちんちんが、今どこに当たってるか教えてやろうか？

私のおまんこだ

私のおまんこに、ぴっちりくっついてるぞ

ははっ

とても熱いな

お前のおちんちん

…さあ、このまま体を洗いあおうか

体を揺すって…んっ

んっ、あっあっ

…ふふっ

お互い、声が漏れてしまうな

乳首と乳首が擦れて…んっ

おちんちんと…んっ、おまんこが擦れて…あんっ

気持ちいいな

あっあっあっ

お前のおちんちん…んっ

私のクリトリスに擦れて気持ちいいぞ

んう

ふふっ

んっ

ちゃんと私の事も気持ちよくできるんだな

んんっ

偉いぞ

あっ

ふふっ

ほら、手が空いてるだろう？

後ろもしっかり洗おう…んっ

んっ

くすっ

いきなりお尻か…んっ

やらしい手つきだ

どんどん変態度が上がっていくな

んっ

なあ…私のお尻はどうだ…？

んっ

お前は大きいお尻、好きか？

…ふふっ、そうか

嬉しい

んうっ

はあ…はあ…ふふっ

折角だ

耳の中も洗ってやろう

あーむっ、ちゆるっ、れろれろれろっ、れろっ、ちゆるるっ、れろろお、れろれろれろれろっ

ふふっ、凄い声だ

れろろお、れろっ、れろれろれろっ

気持ちいいのか？

れろれろれろれろお

嬉しいよ

れろっ、ちゆるるるっ、れろれろお

んんっ

ちゆるるるるるるるっ、れろろお

ふふっ

れろれろれろれろれろれろお

だらしなく口を開けおって

れろれろれろっ、ちゆるちゆる、れろれろろろお

これは口の中も洗ってやらんとならんな

あーんっ、ちゅっ、れろろお、れろれろれろろお、れろれろれろれろれろっ、れろろろお

んっ

ちゅっ

ふふっ

れろれろれろっ

すっかり呆けているな

れろろお、れろれろっ、ちゅっ

可愛い奴め

ちゅっちゅっちゅっ

気持ちいいか？

れろろお、れろれろれろっ

私にキスされながら

れろれろれろお、ちゆるちゆるちゆるっ、れろお

乳首で乳首を洗われて

れろっ、れろれろれろれろっ

おまんこでおちんちんを洗われて

ちゅううううううっ、んぱっ

幸せか？

ちゅっ、れろろお、れろっ

ふふっ

れろれろれろお

私も気持ちいいぞ

れろっ、ちゅっちゅっ

クリトリス、お前のおちんちに擦りつけるの

れろろお、れろれろっ、れろお
癖になりそうだ

あんっ

れろろお、れろちゆるっ、ちゆるちゆるちゆるちゆるちゆるっ、れろお

ふふっ

そうだ、お前に私の唾液を飲ませてやろう

んっ

今朝、お前に精液を飲ませてもらったからな

その礼だ

受け取れ

んっ

ほら、口を開けろ

んーっ、ちゅっ、れろろお、えろっ、えろえろえろえろえろっ

んばっ

ふふ…どうだ？

私の唾液は美味いか？

んっ

くすっ

体がガクガクしてきたな

そうか、そんなに良かったか

なら、もっとくれてやる

んーっ、ちゆるっ、えろろお、えろっ、えろえろえろえろえろっ、えろお

ふふっ

もう果てそうだな

いいぞ

どうせすぐ体を流すんだ

私に唾液を飲まされながら

全身くっつかれて

おちんちんをおまんこで擦られながら

盛大に気持ちよくなれ

ん、ちゆるっ、れろろお、えろっ、えろえろえろえろえろお、えろろお

…んばっ

ふふふっ

あははっ

いっばい出したな

見ろ、私のおまんこ、お前の精液でベツタリだ

くすっ

これでは寝込みを襲われずとも孕んでしまうかもしれないな？

はははっ

…さて

結局汚れが増えたような気がするし

普通に体洗おうか

○トラック9 騎士と賢者と初めての告白

…なあ、起きてるか？

…ずっとお前に訊きたい事があったんだが…

…なんでお前は、私と一緒にいてくれるんだ？

…私はな

生まれつき体が強靱で

そのせいなのか…不死鳥から祝福と使命を授かった

だから、幼い頃から周りの人間は

私を避けるか、崇めるかのどちらかだった…

だから…不思議なんだ

お前は…そのどちらでもないから…

私を恐れ忌み嫌っているわけでもなければ

私を神の如く崇めてもない

…確かに、お前には賢者としての資質がある

私と同じく、不死鳥に選ばれるだけの資質が…

だが…お前まで無理に戦う必要はないんだ

…それなのに…お前は…

どんなに挫けても、どんなに心が折れようとも

傷ついても、辛くても、苦しくても

私と同じ…レットルを貼られようとも…

それでも…私と一緒にいてくれる…

なあ…何故なんだ？

昨日は…お前が私に欲情していると知ったから

それで私と一緒にいるのだと思った

だが、私は知っている

お前はそんな人間ではないと…

お前は、素直で純粋で…そして何より優しい

優しい強さを持っている…

…だからこそ、わからないんだ

お前は、自分が傷ついてでも私と共にいようとする

その為に、強くあろうとし続ける

わからない…何故なんだ？

なぜお前はそこまでして…私と…

…は？

…わ…私の事が…す…すすす…好き？

……え？

そ、それはその…人として…って事だよな…？

……女性として…？

……い、いやいや…待て待て…え？

な、何故私なのだ？

よ…よりにもよって…

…た、確かに私も…どれだけ嫌われようが人を助けてきた

だ、だがな…それは使命だからで…

……そ、そうか…

そこが…そんなに…好きなのか…

…ふふっ

…そっか

そうだったのか

ふふっ、ふふふっ

…それは…すまない事をしたな

…実はな、私はお前が思っているような人間ではないのだよ

私もな、迷っていたのだ

私に畏怖の念を抱き、傷つけてくる人を

救わねばならぬ矛盾…

…だがな、そんな時に…お前と出会った

お前は、自分が傷ついてでも私と共にしようとする

その為に、強くあろうとし続ける

そんなお前を見ていてな…

ああ、私もまだまだだな…と思ったのだ

ふふっ

私は、お前が思っている程強くはない

弱い人間なのだよ

自分の弱さを…お前に救われた

そして何より…孤独から私を救ってくれた

だから私は…お前が好きなのだ

…ふふっ

両想いというやつだな

…だからな

本当にすまない事をした

…私は弱い人間だ

お前がいつか、私から離れてしまうんじゃないかと

気が気でなかった

だから、昨日は絶好のチャンスが訪れたと思った

お前は、私に劣情を抱いていた

それを利用して…お前を私から離れなくしてしまおうと

お前は素直で純粹で…そして何より優しく

健気で一所懸命で…いじらしく愛らしい

簡単に…染まると思ったんだ

お前から様々な初めてを奪って

私の臭いを覚えさせて

私に永遠に劣情を抱かせれば

離れようにも離れられなくなるのでは…と

…実際、お前はすぐに変態に染まったが…

しかし…両想いならば

初めからこんな事しなくてもよかったな…

…なあ

こんなにも弱い私だが

お前の事を疑ったりもしたが

それでも私の事を好きでいてくれるか？
私を許してくれるか？

……ありがとう

私も……お前を愛しているよ

……ふふっ

これで私達は、正式に恋人同士だな

これで人目もはばからず

存分にイチヤイチヤできるぞ

ははっ

……ところで、なんだが……

折角いい雰囲気なのに

お前はまた勃起しているな？

くすっ

そうだな

お前が私から離れてしまう……というのは勘違いだったが

お前が私に欲情しているのは事実だもんな

……くすっ

何を泣きそうになっている

服を脱げ

私達は恋人同士なんだ

夜の営みを行うのは当然だろう？

ふふっ

○トラック10 騎士と賢者と初めての性交

ちゅるるっ、れろれろろお、れろっ、ちゅるっ、れろれろれろれろお

ふふっ

ちゅっ

お前は本当におっぱいが好きだな

れろお

飽きもせずに揉み続けおって

れろれろれろれろお

いや、違ったか

れろろお

お前はおっぱいではなく

れろれろれろっ

私のおっぱいだから、好きなのだったな

ちゅっちゅっちゅっ

私の事が好きなのだったな

ちゅっちゅっちゅっちゅっ

ふふっ

ちゅるっ

嬉しいぞ

れろれろお

私もお前の事が好きだ

れろろお、れろれろれろっ

心から愛している

れろれろれろれろれろれろっ

ふふっ

楽しいな

私は今、とても幸せだ

むちゅっ、れろれろれろろお、ちゅるちゅるちゅるっ、れろろお、れろれろれろれろっ

んっ

れろろお

乳首：気持ちいいぞ：

れろれろれろれろれろっ

もっと弄ってくれ

んうっ

れろれろろお、れろれろれろっ

んっんっ

れろれろちゅるっ、ちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるっ、れろろお

ふふっ

んっ

なあ：実はな

私のおまんこ

ずっと濡れているんだ

恥ずかしいくらいびしょびしょなんだ

：見てくれるか？

…ふふっ

ほら…見てくれ…

さっきお前が目を逸らした

私のおまんこだ

お前のせいで…こんなになってしまったんだ

…触ってみるか？

…くすっ

んっ

ふふっ

たどたどしい手つきだ

可愛いな

んっ

どうだ？

ぬるぬるするだろう？

私がお前に欲情している証だ
んっ

そうだ

お前と一緒にだよ

ふふっ

んっ

んうっ

そこは…クリトリスだ…

あんっ

おまんこの敏感な所で…あっ

舐められると…気持ちいいらしいんだ

あんっ

舐めてみてくれ

…んんうっ、あっ、んっ

…ふふっ…んうっ

本当に気持ちいいな…んっ

…ん？

ああ…すまない…

あの時は嘘をついてしまったんだ

私は男性経験など無い

私も色々…初めてだったんだよ

キスも、おちんちんを見るのも、触るのも

パイズリもフェラチオも

勿論、臭いを嗅がせるのも、告白したのもな…

ふふっ

初めて添い寝した時なんて、心臓の音を聞かれるかと思ったぞ

先程風呂を共にした時なんて

照れ隠しの為に結局おちんちんを虐めてしまったしな

…なんだか、好きって事の方が照れるのだよ
ふふっ

んんうっ

なんだ？

お前も恥ずかしがってるのか？
くすっ

大丈夫だ

私達は好き合ってるのだ

お互いがお互いを好きなのだ

最早、恥ずべき事など何も無いぞ

あんっ

ふふっ

舌の動きが良い感じになってきたな

そろそろ指を入れてみるか？

…くすっ

そうだ

その穴でいい

ゆっくり、指を入れてみる

…んっ、あんっ

ふふっ

どうだ？

温かいだろう？

これがおまんこの中だ

今からお前のおちんちんが入るところだぞ

ほら、ゆっくり指を動かしてみろ

んっ

そうそう…んんうっ

そうやって…ああんっ

前後に動かして…あっんっ

そのまま…んっ

指を動かしたまま…んっ…クリトリスも舐めて

…あっああんっ

んっ、あっあっあっ

気持ちいい…

ああっ

これ、凄い気持ちいい…ああんっ

だめ…んんうっ

いくっ

あっあっあっあっあっあっ

んっ

…はあ…はあ…

ふふっ

少し恥ずかしかったが…

とっても気持ちよかったぞ

ちゃんと私をイかせられたな
偉いぞ

よしよし

ふふっ

さて…

気持ちよくしてもらった礼だ

お前の童貞を貰ってやろう

だから、私の処女もお前にやろう

ふふっ

…ああ、処女膜はな

昔、剣技の鍛錬中に破けてしまったのだよ

だから、安心しろ

血が流れる事はないし

痛みもそんなに無いだろう

…ふふっ

こんな時にまで気遣いとは

私の彼氏は優しいな

…では、入れるぞ

よく見ておけよ

お前のおちんちんが

初めておまんこに入る瞬間を

…んっ…んんう…つつ…う…

…はあ…はあ…

ふふっ

童貞卒業おめでとう…

はあ…はあ…

…どうだ…?

お前のおちんちん…私の中に入ってるぞ

つつ…気持ちいいか?

凄いい声が出ていたな

女の子のような可愛い声だ

ふっ

これでお前の童貞は私のものだ

私の処女もお前のものだがな

ははっ

…ああ、痛みか?

確かに入れた時は痛かったが…大丈夫

もう慣れた

日頃の鍛錬の賜物だな

ふふっ

私はもう動いても平気だが

ならば…懇願してみろ

「僕のおちんちんをヴェル様のおまんこで気持ちよくしてください」と

さあ、言え

…ふっ、あははっ

よく言えたな

偉いぞ

なでなで

…ふふっ

ならばお前の望み通り

私のおまんこで

お前のおちんちんを気持ちよくしてやろう

…んっ、あっ、あっ、あっ

ふふ…んっ、可愛い喘ぎ声だな

あっあっあんっ

気持ちいいか

ああんっ、んっ、あっ

私まだ

あっ、あんっ、んうっ

私も気持ちいいぞ

あっあっあっ

私達…体の相性も良いみたいだな

あっ、ああんっ、あっ、あんっ

くすっ

私も大概だが…あんっ

お前の喘ぎ声も相当だな…あっ

これは…塞いでやらねばならんな

…あーむっ、ちゆるるるっ、れろれろお

んっ、ふふふっ、んんっ

れろれろれろっ

目が蕩け切っているぞ

んっ

れろろお、れろれろれろっ

私のおまんこは…んうっ、そんなに気持ちいいか

んちゅっ、ちゅっちゅっちゅっ

嬉しいな

れろお、れろれろれろれろお、れろれろお

お前はいつも…んっ、私を幸せにしてくれる…あんっ

だから、好きだ

ちゆるちゆるちゆるちゆるちゆるっ

大好きだ

ちゆるちゆるちゆるちゆるちゆるっ

愛してる

ちゆるるるるるるるるるるるっ、んばっ

…はあ…はあ…

あんっ、あっあっあっあっ

気持ちいいぞ、お前のおちんちん

ああんっ

カリ首が…んうっ、中で擦れて…

おまんこ蕩けそうだ…

あつ、ああんっ

れろろお、れろれろれろれろろお、ちゅっ、れろれろろお

お前も気持ちいいか？ あんっ、んっ、私のおまんこ

れろれろれろれろろっ

お前のおちんちんを

れろれろれろろお

温かく包み込んで

んうっ

きゅっと締め付けて

れろれろれろれろろっ

ヒダヒダが：動く度にお前のおちんちんを擦り上げて

れろろお

吸い付いて

ちゅるるっ

離さないんだ

ああんっ

れろれろれろお、れろろろお、れろれろれろれろろっ

おちんちん、溶けちゃいそうか…？

あっあっあっ

ふふっ、んっ、そうか

れろろろお、れろっ

二人でこんなに気持ちよくなれるなんて…んっ

素敵な事だな

あっ、ああんっ

ちゅっ、れろれろれろろお、れろっ、れろれろれろれろろっ

ふふっ、もうイきそうか？

れろろお、あんっ

いいぞ

れろれろれろれろろお

実はな：私もまたイきそうなんだ

んっ、あんっ

れろろお、ちゅるるっ、れろれろれろろろお

だから

一緒にイこう

んっ

手を繋いで

あんっ

キスをしながら

ああんっ

このまま中に出せ

んー、ちゅっ、ちゅるるっ、れろろお、れろっ、ちゅっ、んっ、ちゅるちゅるちゅるっ

んっあっあっ、ああんっ、あんっ

れろろお、れろれろれろろっ、れろお、ちゅるるっ、れろれろれろれろろっ
んっ

れろれろれろれろれろれろれろれろれろお、ちゅっ、れろっ、れろれろれろれろれろっ

…はあ…はあ…はあ…

…ふふっ

いっぱい中出しできたな…

偉いぞ

大好きだ

ちゅっ

○トラック11 騎士と賢者と初めての授乳手コキ

れろろお、ちゆるちゆるちゆるちゆるっ、ちゅぱっ

おお、おはよう

起きたか

ふふっ

あまりにも可愛い寝顔だったものでな

ついキスをしてしまったぞ

ふふっ

しかし朝だ

全てが輝いて見えるよ

ははっ

今日はどうする？

お前のお陰でこの村でやらなければならない事も片付いたし

今日一日くらいは宿でのんびりしてても罰は当たらんと思うが：

：くすっ

お前のおちんちんものんびりしたいと言っているようだな
くすくす

いいぞ

今日は一日

いっぱい気持ちいい事をしような

ふふっ

さて：と

ほらほら、お前も早く脱げ

：ふふっ

いつ見ても可愛いおちんちんだ

さて：まずはどうしてやろうか

：くすっ

相変わらずおっぱいばかり見ているな

：ふふっ

吸ってみるか？

私のおっぱい

：ははっ

いいぞ

吸わせてやる

：ほら、膝枕してやる

横になれ

：ふふっ

色々ちっちゃくて可愛い奴だな

ほら、おっぱいだ

吸っていいぞ

：んっ

ふふっ、遠慮なしに吸い付いてきたな

赤ちゃんみたいで可愛いぞ

よしよし

ミルクを出してやれなくて悪いが

その分ずっと吸ってていいからな
よしよし

くすっ

おいおい、もう我慢汁が垂れてるぞ

まったくどうしようもないおちんちんだな

仕方がないから気持ちよくしてあげるな

ふふふっ

んっ

吸い付きが激しくなったな

可愛い赤ちゃんだ

ははっ

よしよし

いいんだぞ

私の事はママだと思って

こうして甘えにきてくれても

ふふっ

んっ

よしよし

うんうん、そうだな

気持ちいいな

よしよし

ふふっ

安心していいんだぞ？

私はどんな事があるうとお前から離れたりしない

一生傍で守り続けてやる

だから何も心配するな

今はただ、私に甘えていろ

よしよし

んっ

くすっ

おちんちん、もうイきそうだな

いいぞ

私に甘えながら

おっぱい吸って

安心しながら気持ちよく果てろ

：ははっ

たくさん出たな

ほら、お前の精液で滑りがよくなったぞ

ははっ、あははははっ

ん？ どうした？

モゴモゴ言ってるのはわからんぞ？

：おいおい、だめじゃないか

大好きなおっぱいから口を離そうとしては

ほら、もっとおっぱいを吸え

私ももっと、おちんちんを気持ちよくしてやるからな
あはははっ

そんなにバタバタ暴れるなよ
ほら、よしよし

落ちて落ち着け
よしよし

ふふっ

なんだか亀頭が膨らんできたな

また出そうなのか？

いいぞ、何度でも出せ

頭もおちんちんも、ずっとよしよし続けてやるからな
よしよし

よしよし

…ふ、はははっ

噴水みたいに出たぞ
なんだか水っぱいし

これが噂に聞く潮吹きというやつか
ははっ

私だって吹いた事無いのにな
まさか男のお前が先に吹くとはな

まさに生命の神秘だな
くすっ

…って、おい
大丈夫か？

すまなかった
虐めすぎてしまった

お前があまりにいじらしいものだから…
…しかし…涎まで垂らして…

本当に赤ちゃんみたいな奴だ
…ああ、もう我慢できん

あーんっ、ちゅっ、ちゅるるっ、れろろお、ちゅっ、れろれろれろっ
お前が悪いんだぞ？

れろれろれろれろっ、れろお、れろれろろお
お前がそんなに可愛すぎるから

ちゅるちゅるちゅるちゅるちゅる
お前を虐める癖がついてしまったではないか

ちゅっちゅっちゅっちゅっちゅっ
ああ、なんでそんなに可愛いんだお前は

れろろお、れろれろれろれろれろろお
可愛すぎだ

ちゅばっ、ちゅるれろろお
大好きだ

れろれろれろれろっ

これはもう、責任を取ってもらわねばならんな
ちゅっちゅっちゅっちゅっちゅっ

お前にはこの先一生、私に虐められてもらう
ちゅるっ、れろれろれろれろお、れろっ、ちゅるるっ

絶対に離さないからな

ちゅるちゅるちゅるちゅるっ

永遠に虐め続けてやる

れろろお、れろっ

覚悟しろよ

れろれろれろれろれろっ

ああ：ほんと大好きだ

ちゅっちゅっちゅっちゅっちゅっ

愛してる

れろれろれろれろお、れろろお、れろっ、れろれろれろれろれろれろっ

○トラック12 騎士と賢者と初めての逆レイプ

…ふふっ

こうして二人でのんびり過ごすというのも、よいものだな

…私達、本当に付き合っているのだな

…ふふっ

…なあ、しないか…?

お前のおちんちんが、また欲しくなってしまうてな

…な…

なぜ拒否するのだ!?

わ、私としたくないのか!?

…む

た、確かにその通りだが…

しかし私は別に騎士としての本分を忘れているつもりはないぞ

鍛錬を欠かすつもりはないし

これからはこう言う事は一日一回…二回だけに留めるつもりだ

勿論、状況次第だがな

だから…今日ぐらいはいいでしょうではないか

明日になったらすぐにこの村を出るのだ

しばらくは、ゆっくりできぬのかも知れんのだぞ!

…な、そ、そんなの無理だ!

使命を全うし終えるまで、性交しないなど…嫌だ!

私にはできません!

お、お前ばかりずるいぞ!

さっき散々私のおっぱいを吸っていた癖に!

二回もイきおったではないか!

私は今日一回もイつてないのだぞ!?

私だってお前のおちんちんで気持ちよくなりたいのだ!

お前としているとな…愛されている実感が湧くんだよ…

本当なら…絶えずお前としていたいくらいなんだ…

それを我慢しているというのに…

これ以上我慢しろなど…私にはできません!

お前だって、私ともっとしたいんじゃないのか?

私のおまんこに、おちんちん、入れたいんじゃないのか?

…くすっ

…なるほど

意志は固いようだが…なんだこれは?

おちんちんも固くなってしまうているぞ?

くすくす

そうだな

お前も私としたくてたまらないんだよな?

…ほお

まだ拒絶するか

性欲に抗おうとは

相変わらず強いな

ふふっ

だが、私は弱い人間なのでな
性欲には勝てん

どうしてもお前のおちんちんを欲してしまう
だから…全力でお前を誘惑させてもらうぞ
必ずその気にさせてやる

くすっ
…おっと

逃がさんぞ

こうやって足を絡められてしまうと

お前は身動きが取れなくなるもんな
ははっ

さて…並々ならぬ根性者のお前だが…

私の責めに、どこまで耐えられるかな？

…くすっ

くすっ

本当にお前は耳が弱いな？

見ろ

まだ触れていないというのに

股間の染みがどんどん広がっているぞ？

くすくす

どれ、もっと可愛がつてやろう

はーむっ、ちゆるるっ、れろろお、れろれろれろれろお、れろれろっ、れろれろれろれりれろろお
くすっ、気持ちいいな？

れろれろれろっ

敏感な耳を舐め回されて

れろろお、れろれろっ

幸せだな？

れろれろれろれろれろお

我慢しなくていいんだぞ

ちゆるるるるるるるるっ

いつものように素直になれ

れろろろろお

私としたいんだろう？

れろれろれろれろれろお

セックス

ちゆるるるるるるるっ

くすっ

大好きな乳首も虐めてやるな

れろれろれろれろれろっ

くすくす

ちよっと触れただけで勃ってきたぞ

れろろお、れろっ、ちゆるっ

感じやすい乳首だな

れろれろれろお、れろれろろお

コリコリして可愛いぞ

れろろろお、れろれろれろれろれろっ

くすっ、でかい喘ぎ声だな

ちゅっ、れろれろれろっ

うるさくてかなわん

れろろお、れろれろれろれろれろれろれろっ

口を塞いでやろう

んーっ、ちゅっ、ちゅるっ、れろお、れろれろれろれろれろれろお

ちっちゃくて可愛い口だ

れろれろれろれろっ、ちゅっ

どうだ？ 私とのキス

ちゅっちゅっちゅっ

美味しいか？

ちゅるっ、れろれろれろお

私は美味しいぞ

れろれろれろれろっ

お前とのキス

ちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるっ

大好きだ

ちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるっ

んちゅっ

…おい、どうした？

体をガクつかせて…まさか…

メスイキというやつか？

…くすっ

そうか

ふふっ

私に乳首を責められてメスイキしたのか

くっく

本当に可愛い奴だな

んちゅるっ、れろろお、れろれろれろっ、れろれろろお

まだまだ乳首を弄ってやるからな

れろれろれろれろお

どうだ？ メスイキ直後の敏感な乳首を弄られるのは

れろれろれろお、れろお、れろれろれろれろれろっ

頭真っ白になるだろう？

れろれろっ、ちゅるっ、れろれろれろお

しかし、くすっ

ちゅっ

乳首を弄られてメスイキとは

れろれろれろっ

淫乱な賢者だな

れろれろれろお、れろっ、れろれろれろれろっ

そういう所も好きだぞ

ちゅっちゅっちゅっちゅっちゅっ

愛しているぞ

ちゆるちゆるちゆるちゆるちゆるっ

んちゅっ

…おいおい

まさかまた乳首イキしたのか？

くすくす

涎まで垂らして

はしたない奴だ

どれ…そろそろおちんちんも弄ってやるか

ほら、脱がすぞ

腰を上げる

…いいから腰を上げろ

…くすくす

女の子に力づくで言う事を聞かされるとは

情けない奴め

そんな情けない目に遭っているというのに

おちんちんはビンビンだな

ははっ

さあ、おちんちんも弄ってやるぞ

足でな

はははっ

見ろ

お前のおちんちん、私の足に挟まれているぞ

大好きな私の足に

ふふっ

このままおちんちん、足で扱いてやるからな

ははっ

んーちゅっ、ちゆるっ、れろれろれろっ、ちゅっ、れろお

おちんちん、足に犯されてしまってるな

ちゅっちゅっちゅっ

我慢汁が飛び跳ねているぞ

れろれろれろっ

気持ちいいな？

ちゆるちゆるちゆるっ

ふふっ

ちゅっ

なあ、知っているか？

れろお

足コキにも種類があるんだ

れろれろれろっ

足裏で挟むだけじゃなくてな

ちゆるっ、れろお

このように足の甲と足の裏で挟んで扱いたり

ちゅっちゅっちゅっちゅっちゅっ
片足でおちんちんを支えて
れろお

もう片足の指で亀頭を撫で回したりな
ちゆるちゆるちゆるちゆるちゆるっ

あははっ

れろれろれろお

敏感な亀頭を擦られて

ちゆるっ、れろろお

おかしくなりそうか？

れろれろれろお

頭どうにかなってしまいそうか？

ちゅっ、れろれろっ、ちゅっ

いぞ

れろれろれろお

どうにかなってしまえ

ちゆるちゆるちゆるちゆるっ

私におかしくされてしまえ

ちゆるちゆるちゆるちゆるちゆるっ

ははっ、唾液も飲ませてやろう

れろろお、えろっ、えろえろえろえろえろっ

くすくす

えろろお、えろえろえろろろお、ちゅぱっ

美味しいか？ 私の唾液

れろろお

お前は私の唾液が大好きだもんな

ちゅっ、れろれろれろお

そして、私の臭いも好きだ

れろれろお

ほら、お前のおちんちんを犯しているこの足

れろれろれろお

この足の臭いを嗅いで、お前は興奮していたよな？

ちゆるっ、れろろお

この足からは、干し草と納豆の臭いがしたよな？

ちゅっちゅっちゅっ、れろれろれろっ

くすっ、思い出したか？

れろれろれろろお

おちんちん、固さが増したぞ？

ちゆるちゆるちゆるちゆるっ

臭い臭いを思い出して興奮する変態め

ちゆるちゆるちゆるちゆるちゆるっ

くすっ、また嗅ぎたいか？

ちゅっ

私の臭い

れろれろれろれろっ
いいぞ？

嗅がせてやる

ほら、私の腋だ

存分に嗅げ

ははっ

どうだ？

さっきから汗をかきっぱなしだったからな

新鮮な腋汗の臭いがするだろう？

強烈な酸っぱい臭さが

くすくす

脳がトビそうか？

だが、イケないだろう？

イきたくてもイケないよな？

亀頭ばかり虐められては

出したくても出せんと本に書いてあったからな

くすくす

どうだ？

もどかしいか？

イきたいか？

ならばまた乳首を弄ってやろう

はははっ

まだコリコリしているな、この乳首は

くすっ

ん？ どうした？

体が震えているぞ？

まさかもうイきそうなのか？

乳首イきが癖になってないか？

くすっ

いいぞ？

脳を腋汗で犯されながら

乳首を指で犯されながら

おちんちんを足で犯されながら

盛大に果てろ

…くすっ、あはははっ

射精はできなかったのに

メスイキしてしまったな

これではどちらが女の子かわからんぞ？

ふふっ

呆けおって、可愛いな

…私も我慢の限界だよ

…五回

これが何の数字かわかるか？

お前が私を差し置いて、絶頂した回数だ

だが、お前も随分、射精を焦らされたよな？
…お前もいい加減射精したいだろう？
喜べ

抱いてやる

私のおまんこで

今まで溜めてきた分

たっぷり射精させてやるからな

…ほう

あれだけ焦らされたというのに

まだ抵抗できるか

大した精神力だ

やはりお前は強いな

だが…無駄だ

私にのしかかられては

暴れようがないだろう？

くすっ

さあ、犯してやる…

お前のおちんちん

私のおまんこに入れてしまう…ぞ…

んっ…んんう…

…はあ…はあ…

入ったぞ

んっんっあっあっ

気持ちいい…

あんっ

お前のおちんちん…私の気持ちいいところを抉ってくるよ

あっああんっ

女の子に力づくでレイプされるだなんて

んんっ

情けない賢者様だな

あんっ

可愛いぞ

れろれろれろお、れろちゅるっ、れろっ、れろれろれろれろれろっ

可愛い…んっ

れろっ、んっ、れろれろれろっ

あんっ

可愛い可愛い

れろれろれろお

んっ

ああ…どうしてお前はそんなに可愛いのだ!?

許さんぞ!

れろれろれろれろお

んっ、あんっ

もうだめだ

あっあっ

我慢できん

れろろお、れろれろれろお、れろっ、れろれろれろれろお
犯す

んっ

れろれろれろろお

一生犯す

れろれろれろお、んっ、れろれろれろっ、あっ

永遠に犯し続けてやる

ちゅっ、れろれろれろれろお

あっ、あんっ

はあ…はあ…んっ

好きだ

大好きだ

ちゆるるるっ、れろれろれろれろお、ちゆるるっ、れろろろお
愛してる

ちゅっちゅっちゅっちゅっちゅっちゅっ

お前は私の物だ

ちゅっちゅっちゅっちゅっちゅっ

私だけの物だ

ちゆるちゆるちゆるちゆるちゆるちゅるっ

私だけがお前を犯す

ちゆるちゆるちゆるちゆるちゆるちゅるっ

何があっても離さないぞ

ちゆるるるるるるるるるるるるるるるるるっ

絶対に一緒だ

ちゆるれろお、ちゅっ、ちゆるるっ、れろれろれろれろお

んっ、あんっ、ああんっ

もうイきそうだ

お前もイきそうか？

ふふっ、ならば一緒にいくぞ

ちゅっ、れろれろれろれろれろお

このまま二人で、んっ、気持ちよくなろう

れろれろれろれろれろお、れろろお、れろれろれろろお

さあ…私のおまんこに出せ

ちゅっ、ちゆるちゆるちゆるちゆるちゅるっ、れろろお、れろれろれろれろれろっ

れろっ、ちゅっちゅっちゅっちゅっ、れろれろれろれろれろお

…はあ…はあ…

ふふっ、ふふふっ

お腹が熱い…

いっぱい出たな

偉いぞ

よしよし

…くすっ

なんだかまだ、おちんちんが固いな
お前もまだまだし足りないか？

…ふっ

奇遇だな、私もだ

ここまで気が合うとは

やはり私達は、運命の赤い糸で結ばれているらしいな
ふふっ

じゃあ…続き、しようか？

どうしたのだ？

自分が上になりたいだなんて、急に…

まさか、さつき情けないと言われたのを気にしてるのか？

気にする必要などないぞ

その部分も含めて、お前の可愛さなのだからな

…だが…ふふっ

そうだな

お前も男の子だもんな

くすっ

いいぞ…

ほら、こっちへ来い

私が下になってやる

…そうだ

私がおちんちんを支えてやるから

そのまま入れてみる

…んっ…んう…

…はあ…はあ…

ちゃんと入れられたな

偉いぞ

くすっ

ほら、好きなように動いてみる

…んっ

んっ…んっ…

ふふっ…んっ

いいぞ…んっ…

気持ちいいぞ…んっ

あんっ

ふふっ

あれだけメスイキした癖に

んっ

お前もちゃんと男の子なんだな…

可愛いぞ

んっ、あんっ

くすっ

一心不乱に腰を振って

んっ

私のおまんこはそんなにいいか？

んっ

嬉しいぞ

んっ

私もお前のおちんちんは気持ちいい

んっ、あっ

大好きだ

あんっ

あっあっあんっ

…どうした？

動きが止まったぞ？

気持ちよすぎて腰が抜けてしまったか？

…くすっ

仕方のない奴だ

でも、一生懸命、私を気持ちよくしようとしてくれたんだよな

ありがとう

よしよし

ここからは、私が動いてやるからな

…んっ、あっあっあっあっ

あんっ、あっ、ああんっ

気持ちいいか？

私の腰振り

ああんっ

お前のおちんちん、私の中でいっぱい擦ってやるからな

ああっ、あんっ、ああんっ

出したくなったらいつでも出せ

私の中に射精しろ

あんっ、あっあっあっあっ、ああんっ

ふふっ

もうイきそうか？

んっ

いいぞ

たっぷり私に中出ししろ

あっあっあっあっ、ああんっ、あんっ、あっあっ、ああっ…んっ…んっ…

…ふふっ

また出したな

…くすっ

目がトロントロンだな

可愛いぞ

ふふっ

だが、悪いな

私はまだまだし足りん

もう一回セックスするぞ

…くすっ

勃起したな

立派なおちんちんだ

さあほら、そこに座れ

…試したい体位があるんだ

対面座位と言ってな

このように…向かい合って抱き合いながらする体位だ

ふふっ

次はこれでセックスしような

…んっ…んんうっ、あぁっ…

んっんっあぁんっ

ふふっ

あっあっ

気持ちいぞ

あんっ

気持ちよすぎて…んうっ、腰が止まらん…んっ
どうだ？

射精直後の敏感なおちんちんを

んっ

生おまんこで虐められる気持ちは？

んう

ははっ

何度イっても可愛い声で鳴くな

あんっ

乳首も勃起っばなしだな

はははっ

犯されながら乳首虐められるのは好きか？

どこまでいっても可愛い奴め

んちゅっ、ちゅっ、ちゅるちゅるちゅるっ
んっ

ちゅるっ、れろろお、れろれろれろろお

可愛いな

れろれろれろれろろお

可愛すぎだ

ちゅっちゅっちゅっ

愛しているぞ

ちゅるちゅるちゅるっ

お前の全部を

れろれろれろお、れろれろっ、れろれろれろろっ

愛している

れろれろれろれろお、れろっ、ちゅるっ、れろれろれろっ

大好きだ

ちゅっ、れろれろれろれろれろお

好きだ

ちゅるるるるるるるるるっ、ちゅばっ

犯して

ちゅっ

虐めて

ちゅっ

愛し続けてやるからな

ちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるっ

好き

ちゅっ

好き

ちゅっ

れろれろれろれろお、れろれろろお、れろっ、れろれろろお

ああんっ

…はあ…いきそうだ

んちゅっ、れろれろれろれろっ

一緒にいきたい

れろれろれろお、れろっ、れろれろれろれろれろれろお

一緒にいくぞ

ちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるっ

んっ

ほら…

あっ、ああんっ、あんっ

ちゅっ、ちゅっちゅっちゅっ、れろれろれろれろろお

私の中に…出せ

れろろお、れろちゅっ、れろれろれろっ、んっ、ちゅっちゅっちゅっちゅっ

れろれろれろれろっ、ちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるっ、れろれろれろれろお

…はあ…はあ…

ふふっ

ふふふっ

いっぱい中出ししたな

好きだぞ

ちゅっ

…なあ

…私達の使命は、途方もない事のように感じるが…

それでも、きつと…

この日々は、いづれ終わるだろうな…

こんなに楽しい日々なのに

永遠に続く事はないのだろうか…

だから…

私達の使命が終わったら

その時は

…結婚しよう

んーちゅっ、ちゅっちゅっちゅっ

だからそれまでは、こうやって

ちゅるっ、れろれろれろお

毎日キスしよう

ちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるっ

毎日繋がろう

れろれろれろれろお

結婚した後も

ちゅっ、れろれろれろれろっ

毎日犯して

れろろお、れろれろれろろお

虐めてやるからな

ちゅるるるるるるるるるるっ

永遠に愛し続けような

ちゅるちゅるちゅるちゅるちゅるっ、ちゅぱっ

ふふっ

大好きだぞ

一生一緒だ

ちゅっ